同プロジェクトでは、市町村が、再生すべき原木林の面積や実行体制等を定めたほだ木[18]等原木林再生のための計画(再生プラン)を作成し、広葉樹の伐採を実施しており、令和７(2025)年３月末までに伐採・更新を実施した面積は累計で790haとなっている。また、福島県がぼう芽更新木の放射性物質の調査を行うとともに、伐採した広葉樹の利用拡大等に関係者が連携して取り組んでいる(事例Ｖ－２)。これらの伐採や調査は、林野庁の実証事業を活用して行われている。

事例Ｖ－２　「里山・広葉樹林再生プロジェクト」により伐採されたコナラ材の活用

福島県内のしいたけ等原木林の計画的な再生に向けて令和３(2021)年度から開始している里山・広葉樹林再生プロジェクトにおいては、広葉樹の計画的な伐採・更新とともに、伐採されたコナラ等の広葉樹材の利用拡大に向けた取組も進めている。

越井木材工業株式会社(大阪府大阪市)では、本プロジェクトで伐採されたコナラ材をトレーラ及びトラック荷台の床板として活用するため、必要となるコナラ原木の形状や製材方法などについて、福島県内の森林組合や製材工場と協議を重ね、安定的に原材料を確保する体制づくりを進めるとともに、令和７(2025)年度に関連事業者[注1]の協力の下、トレーラ等荷台の床板としての製品化を実現した。

また、2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)の民間パビリオンでは、福島県の復興支援につなげるため、コナラ材を桟積み[注2]してフェンスとして使用することにより、福島県産材を紹介するとともに、閉幕後はトレーラ等荷台の床板として活用している。

注１：荷台製造事業者：日本フルハーフ株式会社(神奈川県厚木市)、本所自動車工業株式会社(栃木県足利市)
　　運送事業者：北海運輸株式会社(北海道札幌市)、遠野興産株式会社(福島県いわき市)
　２：木材乾燥を促すため、材と材の間に桟(細くて短い板)を直交して挟み空気が通る隙間を確保し、積み上げること。

大阪・関西万博で使用したコナラ材フェンス

完成したコナラ材床板(左)とコナラ材床板を使用したトレーラ(右)

[18] 原木にきのこの種菌を植え込んだもの。